

ホクコーバリダシン[®]液剤5

■種類名：バリダマイシン液剤
 ■有効成分：バリダマイシン（バリダマイシンA）----- 5.0%
 ■化管法指定物質：ホリ(ホリエリン)=アルキール (アルキルの炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。) [第1種] ----- 2.9%

■登録番号：第17387号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1989.09.27
 ■性状：緑色澄明液体
 ■有効年限：5年
 ■包装：500ml×20本

【特長】

- 紋枯病と疑似紋枯症のほか、リゾクトニア菌による病害に効果を示す。
- 稲だけでなく、果樹、野菜など幅広い適用がある。
- 細菌性病害に対して効果のあることが明らかとなっており、作用性の異なる細菌病防除剤として注目されている。

【適用内容】(2025年3月8日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	バリダマイシンを含む農薬の総使用回数	
稲	紋枯病	300	25ℓ/10a	収穫14日前まで	5回以内	散布	6回以内 (育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)	
	紋枯病 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) (褐色菌核病菌) (褐色紋枯病菌) もみ枯細菌病	1000	60~150ℓ/10a					
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (白絹病菌) (リゾクトニア菌)	1000	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当たり希釈液500ml	は種時～発病初期	1回	灌注		
もも	せん孔細菌病	500	200~700ℓ/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	
かんきつ、うめ	かいよう病							
すもも	黒斑病							
ばれいしょ	青枯病、軟腐病	200	100~300ℓ/10a	収穫3日前まで	6回以内	散布	7回以内 (種いもへの処理は1回以内、植付後は6回以内)	
	黒あざ病		—	貯蔵前 又は 植付前				1回
		10	種いも 100kg当り 2.5~3ℓ 種いも 100kg当り 200~300ml	植付前	種いも散布			
きゅうり	苗立枯病(リゾクトニア菌)	800	3ℓ/m ²	は種直後		灌注	1回	
キャベツ	株腐病、黒腐病 軟腐病		100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内	
ブロッコリー	黒腐病、軟腐病		収穫前日まで	3回以内	3回以内			
はくさい	軟腐病、黒斑細菌病	500	100~300ℓ/10a	収穫3日前まで	4回以内		4回以内	
だいこん	軟腐病			収穫7日前まで	5回以内		5回以内	
たまねぎ	腐敗病、軟腐病			収穫3日前まで	3回以内		3回以内	
レタス	すそ枯病、腐敗病 軟腐病	800		収穫前日まで	3回以内			3回以内
非結球レタス				収穫3日前まで				
しょうが	紋枯病			収穫14日前まで	4回以内			4回以内

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	パリダマイシンを含む農薬の総使用回数	
みつば	立枯病	800	100~300 ℓ/10a	育苗期	1回	散布	4回以内 (育苗期は1回以内、 移植後は3回以内)	
				移植後 但し 収穫7日前まで、伏せ込み 栽培は伏せ込み前まで	3回以内			
刈揃え前まで	5回以内							
にら			葉腐病、白絹病	収穫3日前まで	3回以内			
にんにく	春腐病	収穫7日前まで	5回以内					
ふき	白絹病	3ℓ/m ²		—	植付時	1回	30分間 種茎浸漬	5回以内 (種茎浸漬は1回以内)
ふき (ふきのとう)		3ℓ/m ²	—	—	—	—	—	6回以内 (種茎浸漬は1回以内、 灌注は5回以内)
		—	—	—	—	—	—	—
てんさい	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	400	3~6ℓ/m ²	育苗中期	1回	灌注	1回	
だいず えだまめ	葉焼病	500	100~300 ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	400	6ℓ/m ²	は種時	1回	灌注	3回以内 (は種時の灌注は1回以内、 散布及び株元散布は合計2回以内)	
	軟腐病	500	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布		
	白絹病					株元散布		
未成熟とうもろこし	紋枯病	1000		—	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
はぼたん	黒腐病	800	—	発病初期	8回以内	散布	8回以内	
西洋芝 (ベントグラス)	葉腐病 (ブラウンパッチ)	1000	1ℓ/m ²					
		500	0.5~1 ℓ/m ²					
日本芝	葉腐病 (ラージパッチ)	—	—	—	—	—	—	

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- ボルドー液との混用はさけること。
- 稲の苗立枯病に使用する場合、白絹病菌、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、その他の菌による苗立枯病には効果があるので注意すること。
- ばれいしよの青枯病に使用する場合、本病の多発するほ場では、登録のある土壌くん蒸剤等との併用処理をすること。
- ばれいしよの軟腐病に対しては効果が劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効である。
- うめ、かんきつのかいよう病に対しては効果がやや劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効である。
- 本剤をレタス、非結球レタスに使用する場合、すそ枯病の防除を主体とし、多発生の腐敗病には効果が劣ることがあるので注意すること。
- だいこんの軟腐病が多発するような条件では本剤はやや効果が劣る場合があるので、なるべく早めの散布をし、他剤との輪番使用をするとより有効である。
- ばれいしよの種いもに使用する場合は下記の注意を守ること。
 - ◆ 切断した種いもを処理する場合、切断面が乾いた後に行うこと。
 - ◆ 種いも散布の場合は、種いもを床などに拡げ、全体が均一にぬれるよう散布すること。
 - ◆ 処理した種いもはよく風乾してから植付けのこと。
- ふき及びふき（ふきのとう）に使用する場合は、種茎浸漬処理と植付後の灌注を組合わせて使用すること。
- 本剤を水田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- トマトには薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。

- きく（秀芳の力等）には薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 使用の際は不浸透性手袋などを着用すること。
- ❖ 公園等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域内に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 本剤で処理した種いもは食料や動物飼料として用いないこと。
- ❖ 浸漬後の薬液は、河川に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。